

平成 16 年度

青年招へい事業 実績概要

平成 17 年 8 月

JICA LIBRARY



1214717 [9]

独立行政法人国際協力機構

国内事業部

市民参加協力室

平成 17 年 10 月 18 日
独立行政法人 国際協力機構
国内事業部 市民参加協力室
青年招へいチーム

正誤表

平成 16 年度青年招へい事業実績概要につきまして、下記の部分に誤りがありましたので訂正いたします。ご迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。

1. 「はじめに」右下 表記の訂正
(誤) 独立行政邦人国際協力機構 → (正) 独立行政法人国際協力機構
2. p.15 表 5 上から 2 行目 第 3 陣アセアン混成 農業 (畑作管理運営) グループを所管する JICA 国内機関の訂正
(誤) 支部センター : JICA 札幌
招へい期間 : 5 月 26 日 (水) ~ 6 月 17 日
国名 / 地域名 : アセアン混成
↓
(正) 支部センター : JICA 帯広
招へい期間 : 5 月 26 日 (水) ~ 6 月 17 日
国名 / 地域名 : アセアン混成
3. 上記 2 の訂正にともなう JICA 国内機関所管グループ数の訂正
(誤) JICA 札幌 (7グループ) → (正) JICA 札幌 (6グループ)
(誤) JICA 帯広 (2グループ) → (正) JICA 帯広 (3グループ)
4. p.16 表 6 上から 2 行目、5 行目 表記の訂正
(誤) 財団法人国際協力センター → (正) 財団法人日本国際協力センター
5. p.18 の脱落
(誤) p.18 が白紙
(正) 別添 青年招へい事業 帰国青年同窓会活動概要 (平成 16 年度) を挿入

以上

平成 17 年 10 月 18 日
独立行政法人 国際協力機構
国内事業部 市民参加協力室
青年招へいチーム

誤表

正誤表

※まして、下記の部分に誤りがありましたので、
訂正させていただきます。

E) 独立行政法人国際協力機構

昆成 農業（畑作管理運営）グループを所

日 17 日

はじめに

青年招へい事業は、開発途上国の若手人材を育成するとともに、相互理解と信頼を深めることを目的に、全国の数多くの団体及び市民の方々に支えられながら実施されています。

その招へい国と人数は、1984年にアセアン6ヶ国を対象に開始した当時から拡大し、平成16年度までに125ヶ国以上から約2万8千人を受け入れるに至っています。これは関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援の賜であり、心よりお礼申し上げます。

本報告書は、平成16年度分の招へい実績の概要に併せ、招へい青年、合宿セミナー参加日本青年及びホームステイを引き受けていただいた家庭の皆様から寄せられた感想文の一部等をまとめたものです。これら感想文にあふれ出ている感動や発見が各地で芽吹き、将来世界各国との相互理解と発展という実を結んでいくことと信じております。

また、年末に発生したスマトラ東方沖地震・津波災害の際には、今までにない形でこの事業の成果を目の当たりにすることができました。特に甚大な被害をこうむったインドネシア・アチェ州で当機構緊急援助隊が活動する際に、インドネシア帰国青年同窓会（KAPPIJA）のメンバーが、緊急援助隊が円滑に活動できるよう、宿舍や車両の提供、通訳までかつて出てくれたのです。この事実は、当事業に携わってきた関係者一同に深い感動を与えると共に、当事業の意義・成果を強く認識するきっかけとなりました。

最後となりましたが、本プログラムの実施に際し、ご協力いただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、青年招へい事業が更に有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成17年8月

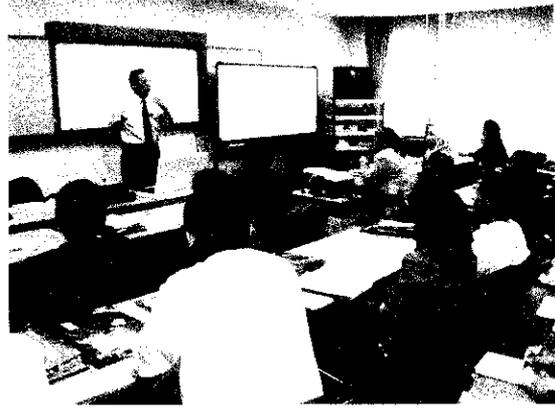
独立行政法人国際協力機構
国内事業部
部長 加藤 宏



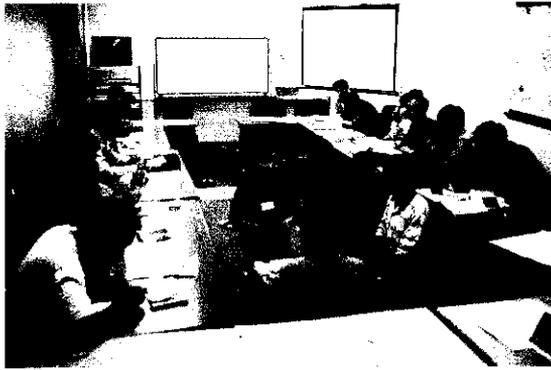
1214717 [9]



①開講式



②共通プログラム 日本理解基礎講座



③共通プログラム 日本語学習



④共通プログラム ワンデイ・ボランティア



⑤分野別プログラム 専門分野の講義



⑥分野別プログラム 専門分野の視察



⑦分野別プログラム 専門分野の視察



⑧合宿セミナー スポーツ交流



⑨合宿セミナー 交流のタペ



⑩合宿セミナー グループディスカッション



⑪分野別プログラム 視察先での交流



⑫分野別プログラム フェアウェルパーティー



⑬ホームステイ ホストファミリーと一緒に



⑭ホームステイ ホストファミリーと流しそうめん



⑮閉講式 修了証授与



⑯歓送会

目 次

はじめに

I. 青年招へい事業について	1
1. 事業の目的	1
2. プログラム構成及び実施体制	1
3. 招へい対象者	1
II. 平成 16 年度青年招へい事業の実績	3
1. 平成 16 年度青年招へい事業の概要	3
2. アフターケア事業	4
(1) アセアン帰国青年同窓会交流連絡会 (AJAFA-21) の活動	4
(2) 事後交流促進調査団の派遣	5
III. 資料	7
図表 平成 16 年度青年招へい事業 受入実績グラフ	8
表 1. 青年招へい事業 国・地域別／年度別受入実績	9
表 2. 平成 16 年度青年招へい事業 招へい陣別受入実績	10
表 3. 平成 16 年度青年招へい事業 国・地域別受入実績	11
表 4. 平成 16 年度青年招へい事業 地域別・国別・分野別受入実績	14
表 5. 平成 16 年度青年招へい事業 JICA 国内機関／都道府県別受入人数	15
表 6. 平成 16 年度青年招へい事業 調査団派遣実績	16
平成 16 年度事後交流促進調査団派遣報告 (要旨)	17
IV. 感想文	19
1. 招へい青年の印象	20
2. 合宿セミナー参加日本青年の声	25
3. ホストファミリーの思い出	27
4. 団体担当者の所感	30

1. 青年招へい事業について

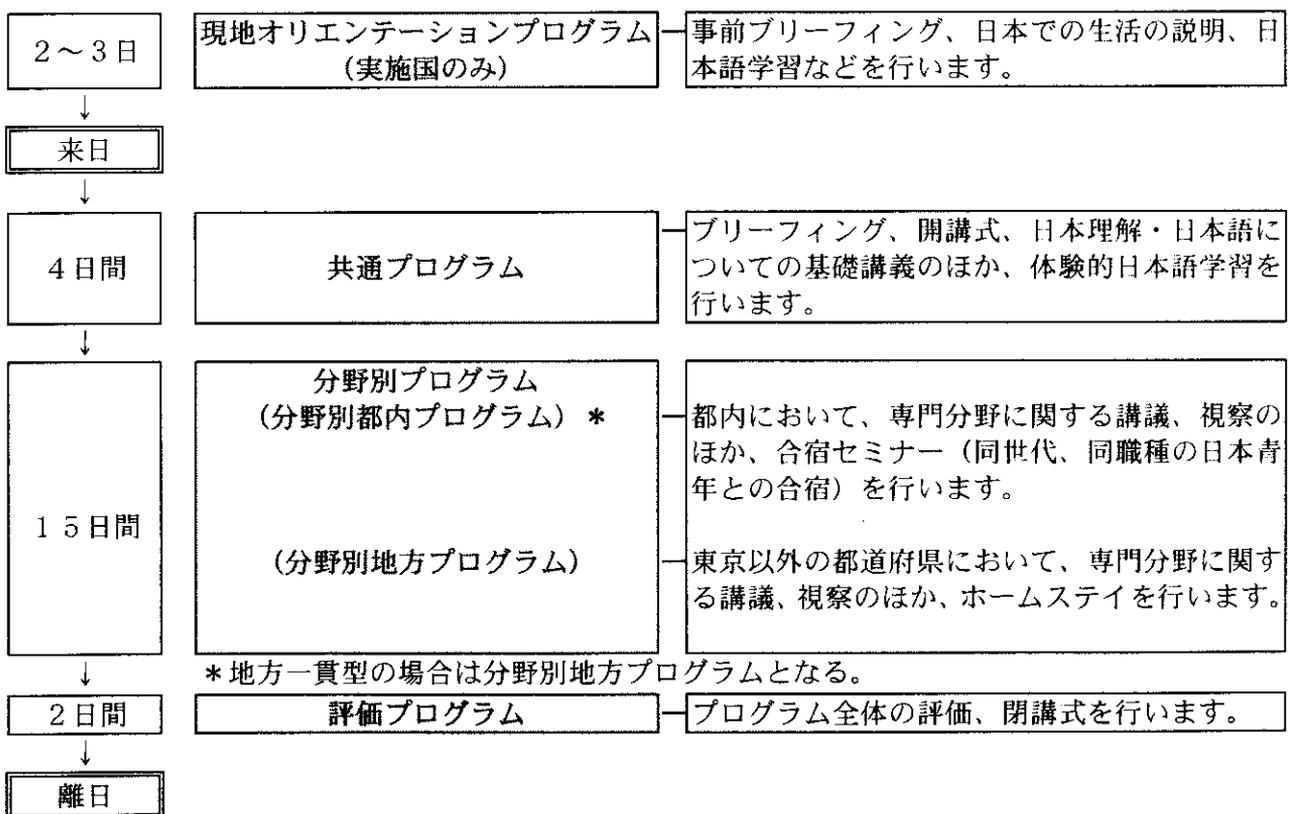
1. 事業の目的

青年招へい事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）が開発途上国を対象に実施する政府開発援助（ODA）事業の一環として、これら諸国の未来の国造りを担う青年を専門分野別に23日間我が国に招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、これらの参加青年が日本人の交流を通じ相互理解を深め真の友情と信頼を培うことを目的としています。

2. プログラム構成及び実施体制

各プログラムは原則として来日日・帰国日を含め23日間で実施されます。また、国により来日前数日間の現地オリエンテーションプログラムを実施します。基本構成は下図のとおりです。

分野別プログラムについては年間計画で決定した各実施協力団体に実施を委託しています。



3. 招へい対象者

参加資格要件として以下の事項を設定しています。

- ①各分野別グループ毎に設定する対象職業に従事していること。

- ②18 歳以上 35 歳以下であること
- ③所定の言語に堪能であること
- ④心身共に健康であること。(移動が多いため、身体にかかる負担を考慮し、妊婦は対象外。)
- ⑤軍籍にないこと。
- ⑥来日経験がないこと。

II. 平成16年度青年招へい事業の概要

1. 平成16年度青年招へい事業の概要

平成16年度はアジア、大洋州、中南米、アフリカ及び中近東地域計110カ国より1,601名の青年を招へいしました。(国・地域・分野別の招へい計画及び実績については別表2参照。)

招へい青年は、共通プログラム、都内分野別プログラム(一部プログラムを除く)及び41道府県に分かれての地方分野別プログラムを通じて、専門分野に関する知見を広げると共に日本と日本人への理解を深め、その成果と共に帰国しました。

また、相互理解を促進する機会であるホームステイ、合宿セミナー、ワンデイボランティアでは延べ1,541家庭と3,061人のボランティアの方々に参加いただき、地域国際化の輪を広げました。各地での学校訪問では、招へい青年が日本の人材育成の基礎となる教育の現場を体験するとともに、国際理解教育の一助ともなり相乗効果をもたらしています。

トルコ、ヨルダンから新規受入開始

昨今、イラク情勢に代表される中近東地域の平和と安定が世界的課題となっています。平成16年度よりトルコ、ヨルダンにおいて青年招へい事業が開始されましたが、その背景には、トルコ、ヨルダンがこうした情勢下、地理的に重要な位置にあり、国際的視野を持つ若手人材の育成が、長期的な各国・地域の発展と安定のために重要と考えられることが挙げられます。

トルコからは初等教育の教員20名および報道関係者1名、ヨルダンからは情報通信技術(ICT)分野の関係者20名および報道関係者1名が、寒さの厳しい2月初旬来日しました。

トルコグループは、大阪での共通プログラム実施後、トルコにゆかりのある和歌山県串本町を表敬訪問した後、北海道滝川市に向かいました。青年たちの中には、こんな雪の中では学校は閉鎖されているに違いない、と思った青年もいたようです。しかし、ロードヒーティングの入った道や、雪の中でも生徒たちが学校に通っているということを発見するなど、プログラム以外からもさまざまなものを吸収していました。帰国後、国民教育省とJICA事務所の共催で100名余りの教員を招いて報告会が実施され、日本の教育システムや教育問題についての質疑応答が活発に行われました。

ヨルダングループは、東京および千葉県市川市にて受け入れをしました。来日前からJICA-Netを通じて、受入団体とJICAヨルダン事務所間で、プログラムの詳細や受入に際しての留意点等について打ち合わせを行い、実施に備えました。情報伝達技術という比較的新しい分野での受入ということもあり、受入団体においてもプログラム策定にはご苦労されたようですが、青年たちは見学先の一つであった市川市生涯学習センターや図書館のシステム等の見学に大変感銘を受けていたようです。また、合宿セミナーにおいては、インターネット普及の利点、欠点をめぐる議論が交わされ、間違った情報やネガティブな情報を受け取ってしまうという欠点が挙がりました。それに対し、ヨルダンの青年からは、イスラムの倫理的価値観(Ethic)がそれらの危険な情報から家族を守っているという指摘がなされ、日本人参加者には目からうろこが落ちるような経験だったようです。

青年招へい事業は、それに関わった日本人にも多くのインパクトを残すことが一つの特徴になっています。特に、トルコ、ヨルダンに関しては、名前は知っていてもその詳細まで知っている日本人は少なく、今回の受入を通して、自分で調べてみたり、話を聞いたりして大変身近に感じるようになったという声もありました。

ヨルダンではTo see is not as to hearということわざがあるそうです。青年招へい事業はまさしくそれを体感するプログラムであったと、ヨルダンの報道関係者が自国の新聞に書いています。トルコ、ヨルダンの両国の青年には、日本で見たもの、経験したものを糧に、今後、それぞれの地域・分野のリーダーとして活躍して欲しいものです。

2. アフターケア事業

(1) アセアン帰国青年同窓会交流連絡会 (AJAFA-21) の活動

①ユースキャンプの開催

諸般の事情で数年間実施されていなかったユースキャンプ (アセアン各国及び日本から青年を1ヶ所に集め、議論や交流を行うもの) が、2004年10月1日から4日まで、インドネシアのデボックにて実施されました。

キャンプは、「アセアン各国間と日本の文化交流と相互理解を通して育まれる友情という架け橋」というテーマで実施され、アセアン8カ国 (フィリピン及び日本からの参加なし) から総勢50名の参加を得ました。

2日目に行われたシンポジウムでは、「若者の収入の得方と効果的な使い方」というテーマで参加各国からプレゼンテーションがあり、各国の若者の経済的動向についてお互いの理解を深めました。

文化交流の時間には、踊り、唄、伝統工芸体験などインドネシア文化を十分に体験し、さらに、インドネシアの教育事情を視察する学校訪問および孤児院訪問も盛り込まれました。日曜日にはホームステイプログラムも用意され、参加者は現地の方々のホスピタリティを十分に感じる機会となりました。

今回のユースキャンプは残念ながら日本からの参加者がありませんでしたが、青年招へい事業を通して培われた人脈と育まれた友情の更なる発展のために、JICAとしては今後も可能な範囲で支援を続ける予定です。

②AJAFA-21 年次執行委員会の開催

2005年3月18日3日間、ベトナムのハノイ市にて、AJAFA-21の執行委員会が開催されました。この執行委員会は、アセアン各国代表者が集まって議論し交流を深める機会としてひとつの南南協力の形を呈しており、青年招へい事業の面での広がりを感じさせるものとなっています。

今回は、アセアン9カ国の同窓会代表者 (ブルネイ除く) が参加し、日本からは3名 (JICA、CAC-21) がオブザーバーとして出席しました。(各国同窓会の概要は別添を参照)

確認された主な事項は以下のとおりです。

- ・ 2005年度のAJAFA-21執行委員会はカンボジアで開催の予定であるが、その可能性につき2005年6月末までにカンボジア同窓会で決定する。もしもカンボジア同窓会での実施が困難な場合はインドネシア同窓会が主催する。
- ・ 2005年度ユースキャンプ (アセアン各国及び日本から青年を1ヶ所に集め、ミーティングと交流を行うもの) は、ラオス同窓会主催でラオスにて開催する方向で企画する。
- ・ AJAFA-21 ソングコンテストを実施する。友情とAJAFA-21精神を歌いこんだものを最優秀賞とする。歌の著作権はAJAFA-21に属する。応募締め切りは2005年9月15日とする。優勝者にはAJAFA-21基金より賞金を準備する。
- ・ インドネシア同窓会およびタイ同窓会は協同で、津波被災者支援プロジェクトを提案する。2005年6月末までに提案書を事務局に提出する。

(2) 事後交流促進調査団の派遣

青年招へい事業においては、招へいを系口とした国際交流・協力活動が大きな成果のひとつと位置付けられており、また今後さらに国際協力における国民参加の拡大が期待されています。このような背景の下、従来のアフターケア調査の趣旨を拡大し、各団体等の継続的な事後活動（国際交流、国際協力）を推進することを目的に、2002年度から事後交流促進調査団を派遣しています。本調査団は、青年招へい事業受入を契機に招へい国との継続的な交流・協力事業を実施したいという受入団体や地域の趣旨に当機構が賛同し、その経費の一部を負担するものです。

2004年度は、インドネシアとマレーシアの2件が採択され、各国で今後具体的な交流・協力を実現していくための調査が実施され、帰国青年等との交流が深められました。（各調査団報告要旨は別添3参照）

今後も様々な地域で事後交流・協力案件が拡大していくことが期待されています。

なお、今後は、この調査団については、事後活動として国際協力事業の方向へ発展性がある計画に対して優先的に支援していく方向で検討中です。

スマトラ沖大地震・インド洋津波被害における 帰国青年同窓会 (KAPPIJA-21) の活躍

2004年12月26日に発生したスマトラ沖大地震・インド洋津波は甚大な被害をもたらしました。JICAは災害発生直後から国際緊急援助隊を4カ国に派遣しました。

緊急援助隊は現地でもさまざまな方々の支援を得て活動しますが、特に被害が大きかったインドネシア・アチエ州では、インドネシア帰国青年同窓会 (KAPPIJA-21) メンバーが大活躍しました。

KAPPIJA アチエ支部長のミクダルさん（平成11年度第23陣インドネシア公務員・行政グループ参加）はじめ、ミクダルさんが呼びかけた同窓会メンバーは、メンバー自身が今回の災害で家族や友人を亡くした被災者でありながら、宿舎や車両の提供、ボランティア通訳など、ありとあらゆる支援をしてくれたのです。

この支援にささえられて活動した緊急援助隊医療チーム第1次隊が診療した患者総数は1436名にもものぼります。彼等の活躍は、被災地への支援が緊急支援から復旧・復興支援へと移行している現在も、感謝をこめて語りつがれています。日本で専門分野における同年代の日本人と交流し日本文化を体験する青年招へい事業の成果を実感した出来事でした。

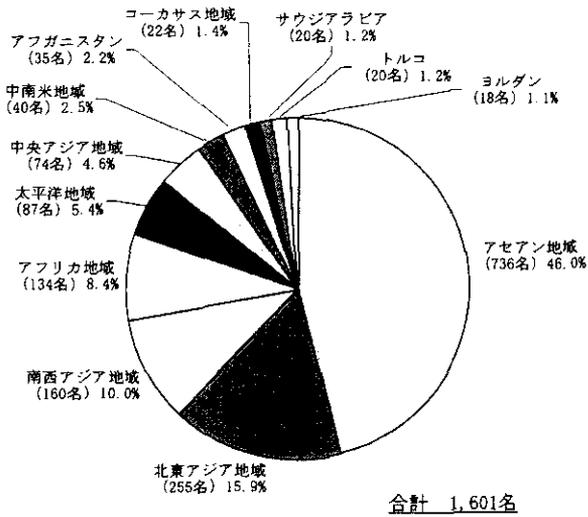
Ⅲ. 資 料

- 図表. 平成 16 年度青年招へい事業 受入実績グラフ
- 表 1. 青年招へい事業 国・地域別／年度別受入実績
- 表 2. 平成 16 年度青年招へい事業 招へい陣別受入実績
- 表 3. 平成 16 年度青年招へい事業 国・地域別受入実績
- 表 4. 平成 16 年度青年招へい事業 地域別・国別・分野別受入実績
- 表 5. 平成 16 年度青年招へい事業 JICA 国内機関／都道府県別受入人数
- 表 6. 平成 16 年度青年招へい事業 調査団派遣実績

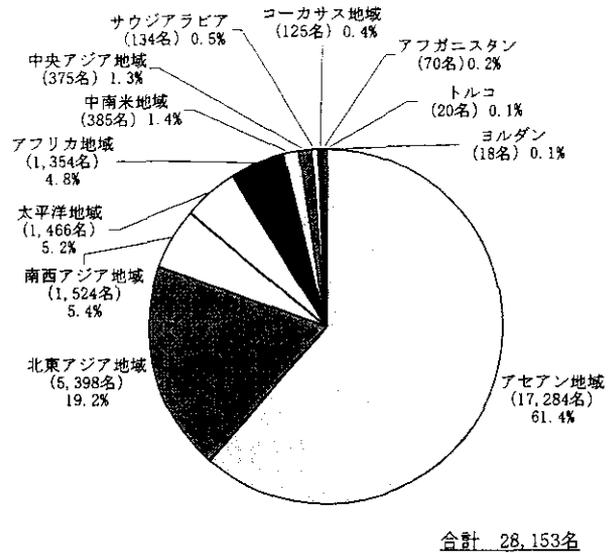
平成 16 年度事後交流促進調査団派遣報告（要旨）

図表. 平成16年度青年招へい事業 受入実績グラフ

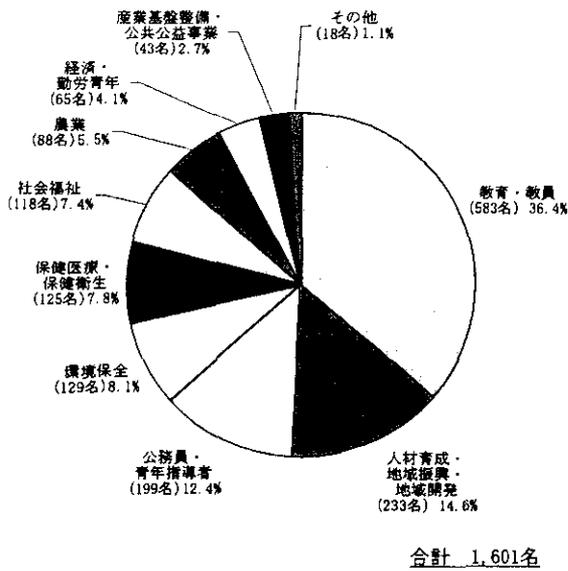
平成16年度青年招へい事業 地域別受入実績



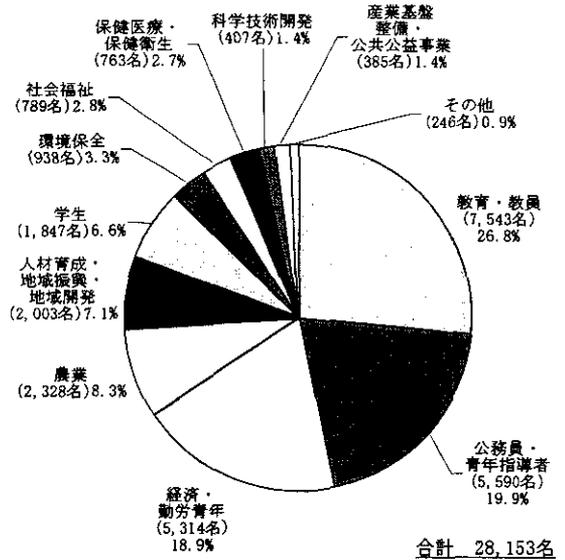
青年招へい事業 地域別受入 累計実績
(昭和59年度～平成16年度)



平成16年度青年招へい事業 分野別受入実績



青年招へい事業 分野別受入 累計実績
(昭和59年度～平成16年度)



日本人ボランティア数

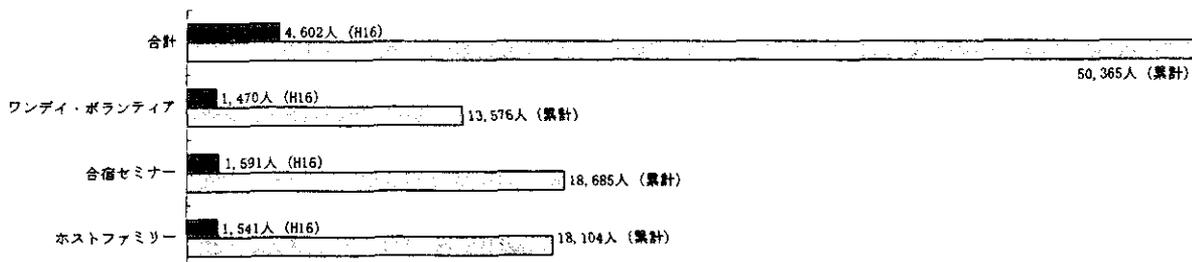


表1. 青年招へい事業 国・地域別／年度別受入実績

国名	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	合計															
	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
ブルネイ	5	30	49	50	50	49	50	43	50	48	49	48	49	48	42	-	-	-	-	-	-	660
カンボジア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	30	30	30	30	40	40	40	40	50	360
インドネシア	149	150	150	150	150	149	150	149	147	149	145	150	149	150	148	149	151	147	149	148	129	3,108
ラオス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	18	20	20	34	30	30	30	30	30	262
マレーシア	147	148	150	150	150	150	150	150	150	150	150	149	150	150	146	149	153	156	140	148	111	3,097
ミャンマー	-	-	10	10	-	-	-	-	-	-	20	20	20	20	20	20	30	30	30	19	30	279
フィリピン	149	150	150	150	150	150	149	147	148	149	150	149	150	148	149	150	149	147	151	130	-	3,115
シンガポール	149	150	150	150	150	150	150	147	149	149	147	146	149	148	106	-	-	-	-	-	-	2,190
タイ	149	150	150	150	150	150	150	150	149	147	150	150	150	150	150	150	150	150	150	145	127	3,117
ベトナム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98	99	99	100	115	100	100	99	100	110	1,020
東ティモール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15	20	20	19	76
ASEAN諸国・地域小計	748	778	809	810	800	798	799	786	793	792	811	960	964	963	911	797	806	817	805	801	736	17,284
中華人民共和国	-	-	-	100	100	50	199	200	199	197	200	197	200	200	200	320	320	318	300	246	240	3,786
大韓民国	-	-	-	100	99	99	100	98	99	96	100	98	100	97	99	100	90	97	-	-	-	1,472
モンゴル	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	15	10	15	140
バングラデシュ	-	-	-	-	-	-	-	20	20	20	20	20	20	19	20	20	20	35	29	30	30	323
ブータン	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	10	74
インド	-	-	-	-	-	-	-	30	29	30	13	23	27	24	28	30	30	38	35	25	38	400
モルディブ	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	10	75
ネパール	-	-	-	-	-	-	-	10	9	10	10	10	10	7	10	9	10	15	20	15	20	165
パキスタン	-	-	-	-	-	-	-	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	30	30	30	29	319
スリランカ	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	15	15	15	23	168
南西アジア諸国小計	-	-	-	-	-	-	-	100	98	100	83	93	97	90	98	99	99	143	139	125	160	1,524
アフリカ諸国	-	-	-	-	-	-	-	-	50	100	97	95	95	92	144	136	130	140	141	134	-	1,354
フィジー	-	-	10	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	12	224
バブア・ニューギニア	-	-	10	14	30	34	30	30	30	30	30	30	30	29	29	30	30	30	30	30	30	536
その他太平洋諸国・地域	-	-	-	-	45	38	36	32	36	34	38	36	47	47	47	44	46	47	41	47	45	706
太平洋諸国・地域小計	-	-	20	24	86	84	78	74	78	76	80	78	89	88	88	86	88	89	83	90	87	1,466
中南米諸国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	49	54	50	47	48	47	40	385
サウジアラビア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	20	17	17	20	20	134
カザフスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	5	5	10	19	20	18	83
キルギス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	14	29	20	20	98
タジキスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	3	10	20	20	17	80
トルクメニスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5	5	10	-	-	-	24
ウズベキスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	6	9	26	20	19	90
中央アジア5カ国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	25	24	53	94	80	74	375
アルメニア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	8	10	10	9	42
アゼルバイジャン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	10	10	10	6	41
グルジア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	10	10	10	7	42
コーカサス3カ国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	28	30	30	22	125
アフガニスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	35	70
トルコ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
ヨルダン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	18
合計	748	778	829	1,034	1,085	1,031	1,176	1,258	1,277	1,321	1,384	1,533	1,555	1,593	1,592	1,655	1,658	1,749	1,671	1,625	1,601	28,153

表2. 平成16年度青年招へい事業 招へい陣別受入実績

No.	招へい期間(来日から曜日)	招へい人数、発着空港名、共通及び研修7ヶ月期間中の宿泊先	国名/分野名	招へい分野	定員	実績	都内実業協力団体	実施県	地方実業協力団体
1	5月12日(水)～6月3日(木)	39グループ 55名 成田空港発着 TIC宿泊	マレーシア	教育(小学校教員)	23	23	(財)世界青少年交流協会 (社)国際交流サービス協会 (財)日本友愛青年協会	福井 山梨 京都	福井県国際交流協会 (財)山梨県YMCA (財)京都ユース・ホステル協会
2	5月19日(水)～6月10日(木)	49グループ 100名 関西空港発着 OSIC宿泊	中華人民共和国	青年指導者	25	25	(社)青少年育成国民会議 (財)ユースワーカー能力開発協会 (社)日本中国友好協会 (財)国際警備協会	大阪 徳島 奈良 香川	(財)大阪府青少年活動財団 徳島県青年海外派遣の会 (社)日本中国友好協会 (財)奈良YMCA
3	5月26日(水)～6月17日(木)	49グループ 100名 関西空港発着 OSIC宿泊	アセアン諸国	教育(行政)	26	26	岐阜県世界青年友の会 (社)青少年育成国民会議 徳島県日中青年交流協会 (社)青年海外協力協会	岐阜 福岡 徳島 北海道	岐阜県世界青年友の会 (社)九州・山口経済連合会 徳島県日中青年交流協会 十勝インターナショナル協会
4	5月27日(木)～6月18日(金)	39グループ 87名 成田空港発着 TIC宿泊	太平洋諸国	社会開発	20	19	(財)世界青少年交流協会 (社)日本経済青年協議会 鋼路市海外青年招へい事業実行委員会 (社)国際交流サービス協会 (財)国際看護交流協会	秋田 岡山 北海道 山口 長野	秋田県世界青年友の会 (財)岡山県青年経 鋼路市海外青年招へい事業実行委員会 (財)防長青年館 (社)駒ヶ根青年会議所
5	6月2日(水)～6月24日(木)	49グループ 89名 関西空港発着 OSIC宿泊	ベトナム	教育	25	24	(社)国際交流サービス協会 (財)ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部 農業(農村開発) (財)日本国際協力センター	栃木 宮崎 茨城 沖縄	(財)栃木県青年会館 (財)ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部 茨城県青年海外協力協会 (財)沖縄県国際交流・人材育成財団
6	6月16日(水)～7月8日(木)	49グループ 89名 関西空港発着 OSIC宿泊	フィリピン	行政(地方行政)	23	23	(社)日本経済青年協議会 (社)国際交流サービス協会 農業(水産業) 教育(小学校教員)	愛知 徳島 千葉 群馬	(財)名古屋国際センター 徳島県青年団体連合会 (財)ちば国際コンベンションビルロー (等)群馬県世界青年友の会
7	6月23日(水)～7月15日(木)	39グループ 73名 成田空港発着 TIC宿泊	アフリカ諸国(仏語圏)	女性教員	28	23	(社)勤労厚生協会 (財)日本ユースホステル協会 (財)国際看護交流協会	愛知 岡山 三重	(社)勤労厚生協会 津山と世界を結ぶ会 (財)国際看護交流協会
8	6月30日(水)～7月22日(木)	49グループ 87名 関西空港発着 OSIC宿泊	インドネシア	行政(地方行政)	23	23	(社)勤労厚生協会 (財)世界青少年交流協会 (社)青年海外協力協会 (社)国際交流サービス協会	福島 群馬 山形 福岡	福島県青年海外派遣の会 (財)群馬県国際交流協会 山形県青年海外協力協会 (社)青年海外協力協会九州支部
9	7月14日(水)～8月5日(木)	49グループ 59名 関西空港発着 OSIC宿泊	パキスタン	地方行政1	15	14	(財)日本国際協力センター (社)青年海外協力協会 (財)国際看護交流協会 (財)日本ユースホステル協会	広島 茨城 奈良 香川 徳島	しょうばら国際交流協会 茨城県外国青年招へい事業実行委員会 (財)香川県国際交流協会 徳島県市民フォーラムなら
10	7月21日(水)～8月12日(木)	39グループ 75名 成田空港発着 TIC宿泊	ベトナム	社会福祉	25	26	(財)札幌国際プラザ (財)ユースワーカー能力開発協会 (社)日本経済青年協議会	北海道 大阪 三重	(財)札幌国際プラザ (財)ユースワーカー能力開発協会 (財)三重県国際交流財団
11	9月1日(水)～9月23日(木)	39グループ 60名 成田空港発着 TIC宿泊	中華人民共和国	行政	20	20	(社)青少年育成国民会議 (財)ユースワーカー能力開発協会 (社)国際警備協会	福井 富山 奈良	福井県日本中国友好協会 (財)とやま国際センター (社)まちづくり国際交流センター
12	9月1日(水)～9月23日(木)	39グループ 59名 関西空港発着 OSIC宿泊	マレーシア	行政(地方行政)	23	22	(財)ユースワーカー能力開発協会 地域振興 教育(小学校教員)	千葉 長崎 大阪	千葉市国際交流協会 長崎県世界青年友の会 大阪市青少年育成国民会議
13	9月8日(水)～9月30日(木)	39グループ 61名 関西空港発着 OSIC宿泊	アフリカ諸国(英語圏)	女性教員	25	20	(財)日本友愛青年協会 道教科教員 (財)小松市国際交流協会 保健衛生(公衆衛生)	長野 石川 兵庫	(財)日本友愛青年協会 小松市国際交流協会 国際看護交流協会
14	9月29日(水)～10月21日(木)	49グループ 91名 関西空港発着 OSIC宿泊	タイ	教育(全教科)	23	23	(社)日本国際生活体験協会 (社)日本経済青年協議会 (財)日本ユースホステル協会 (財)岩手県国際交流協会	鳥取 北海道 徳島 岩手	国際ネットワークしまね とまこまい国際交流センター ハーモニー・ワーク・キャンプ (財)岩手県国際交流協会
15	11月3日(水)～11月25日(木)	39グループ 40名 関西空港発着 OSIC宿泊	中南米諸国	小中学校教員1	20	17	(財)海外日人協会 (財)愛媛県国際交流協会 (社)日本経済青年協議会	神奈川 愛媛 北海道	鎌倉ユース協会 (財)愛媛県国際交流協会 (財)北海道国際交流センター
16	11月17日(水)～12月9日(木)	49グループ 80名 関西空港発着 OSIC宿泊	中華人民共和国	地域振興1	23	23	(社)日本中国友好協会 (社)勤労厚生協会 (財)共立国際交流奨学財団 (財)日本ユースホステル協会	鳥取 香川 和歌山 高知	とっとり青年会 香川県海外派遣の会 和歌山県国際交流協会 高知希望工業会
17	11月24日(水)～12月16日(木)	49グループ 68名 成田空港発着 TIC宿泊	インド	農業	20	19	旭川市国際交流委員会 (社)青少年育成国民会議 (社)青年海外協力協会 教育(初・中等教育)	北海道 佐賀 兵庫 高根	旭川市国際交流委員会 佐賀ユース協会 (財)山口県国際交流協会 吉川町国際交流協会
18	1月17日(月)～2月8日(火)	29グループ 35名 成田着・関西発 TIC・OSIC宿泊	アフガニスタン	公務員	15	15	(財)青少年育成国民会議 (社)青年海外協力協会	兵庫 鳥取 大阪	(財)しまね国際センター (社)青年海外協力協会近畿支部
19	1月19日(水)～2月10日(木)	29グループ 22名 成田空港発着 TIC宿泊	コーカサス諸国	地域振興(中小企業振興)	15	12	(社)国際交流サービス協会 (財)日本ユースホステル協会	静岡 大阪	沼津国際交流協会 (財)大阪ユースホステル協会
20	1月19日(水)～2月10日(木)	49グループ 68名 関西空港発着 OSIC宿泊	スリランカ	教員(コンピュータ)	25	23	(社)日本国際生活体験協会 (社)勤労厚生協会 (社)青年海外協力協会 教育(初・中等教員)	兵庫 静岡 鹿児島 福島	川西市国際交流協会 (財)静岡県国際交流協会 (財)鹿児島県国際交流協会 にほんまつ地球市民の会
21	2月2日(水)～2月24日(木)	29グループ 38名 関西着・成田発 OSIC・TIC宿泊	トルコ	教員(初等教育)	20	20	(社)福川国際交流協会 (財)ユースワーカー能力開発協会	北海道 千葉	(社)福川国際交流協会 市川市ユース協会
22	3月30日(水)～4月21日(木)	49グループ 74名 成田空港発着 TIC宿泊	中央アジア諸国	マスメディア	25	18	(社)国際交流サービス協会 (社)勤労厚生協会 (財)北海道YMCA (財)日本ユースホステル協会	広島 和歌山 北海道 北海道	(学)広島YMCA学園 港友会 (財)北海道YMCA 北見国際技術協力推進会議
23	3月30日(水)～4月21日(木)	49グループ 91名 関西空港発着 OSIC宿泊	インドネシア	社会福祉(障害者福祉)	23	23	(財)日本国際生活体験協会 (社)日本経済青年協議会 (社)青年海外協力協会 (社)青年海外協力協会	大阪 沖縄 石川 山口	(社)アジア協会アジア友の会 沖縄県国際交流センター (財)石川県ユースホステル協会 世界青年連帯友の会
合計			アセアン9カ国(736)	太平洋諸国・地域14カ国(87)			中華人民共和国(240)	アフガニスタン(35)	
			23陣	南西アジア7カ国(160)			モンゴル(15)	トルコ(20)	
			80グループ	中央アジア4カ国(74)			サウジアラビア(20)	ヨルダン(18)	
			110カ国・地域	コーカサス3カ国(22)					

表3. 平成16年度青年招へい事業 国・地域別受入実績

1. 東南アジア諸国 (9カ国)

①アセアン諸国

国名	混成グループ小計(a)	国別グループ小計(b)	総計
インドネシア	16	113	129
マレーシア	16	95	111
フィリピン	16	114	130
タイ	13	114	127
ベトナム	9	101	110
カンボジア	10	40	50
ミャンマー	10	20	30
ラオス	10	20	30
合計	100	617	717

(a)アセアン混成グループ別実績

国名/分野名	教育 (行政)	公共事業 (財政金融)	保健衛生 (公衆衛生)	農業 (畑作管理運営)	国別小計
インドネシア	4	4	4	4	16
マレーシア	4	4	4	4	16
フィリピン	4	4	4	4	16
タイ	4	1	4	4	13
ベトナム	2	3	2	2	9
カンボジア	3	3	2	2	10
ミャンマー	3	2	2	3	10
ラオス	2	2	3	3	10
グループ別合計	26	23	25	26	100

(b)国別グループ実績

国名	分野名	小計人数
インドネシア	行政 (地方行政)	
	環境保全 (廃棄物処理)	
	教育 (小学校教員)	
	社会福祉 (障害者福祉)	
	地域振興	
国別小計	113	
マレーシア	教育 (小学校教員)	
	社会福祉 (障害者福祉)	
	環境保全 (廃棄物処理)	
	行政 (地方行政)	
	地域振興	
国別小計	95	
フィリピン	行政 (地方行政)	
	環境保全 (水質保全)	
	農業 (水産業)	
	教育 (理数科教員)	
	地域振興	
国別小計	114	

タイ	環境保全 (大気汚染対策)	
	教育 (全教科)	
タイ	地域振興	
	社会福祉	
タイ	社会福祉	
	行政 (地方行政)	
国別小計	114	
ベトナム	教育	
	環境保全	
	社会福祉	
	地域振興	
国別小計	101	
カンボジア	農業 (農村開発)	
	行政 (地方行政)	
国別小計	40	
ラオス	教育 (初・中等教育)	
	国別小計	
ミャンマー	教育 (小学校教員)	
	国別小計	

②東ティモール

分野名	分野別人数	国別合計
教員 (小学校教員)	19	19

2. アフリカ諸国 (48カ国)

仏語圏グループ (27カ国)

国名/分野名	女性教員	理数科教員	保健衛生 (公衆衛生)	国別合計
アルジェリア	-	1	1	2
カーボヴェルデ	1	-	1	2
ガボン	1	1	1	3
カメルーン	2	1	2	5
ギニア	1	1	1	3
ギニアビサウ	-	0	-	0
コモロ	-	-	-	0
コンゴ共和国	1	1	1	3
コンゴ民主共和国	0	0	-	0
サントメ・プリンシペ	1	1	-	2
ジブチ	1	1	1	3
セネガル	2	1	2	5
チャド	1	1	1	3
チュニジア	2	1	2	5
トーゴ	1	1	1	3
ニジェール	1	2	1	4
ブルキナファソ	1	1	2	4
ブルンジ	1	1	-	2
ベナン	1	1	2	4
マダガスカル	1	1	2	4
マリ	1	1	1	3
モーリタニア	1	1	1	3
モロッコ	0	1	2	3
ルワンダ	0	-	1	1
コートジボワール	1	2	1	4
赤道ギニア	1	1	-	2
中央アフリカ	0	0	0	0
グループ別合計	23	23	27	73

英語圏グループ (22カ国)

国名/分野名	女性教員	理数科教員	保健衛生 (公衆衛生)	国別合計
アンゴラ (注)	0	1	-	1
ウガンダ	1	1	1	3
エジプト	2	2	1	5
エチオピア	0	2	2	4
エリトリア	0	0	0	0
ガーナ	1	2	2	5
ガンビア	1	-	-	1
ケニア	1	1	0	2
ザンビア	1	2	1	4
シエラレオネ	-	-	1	1
ジンバブエ	1	1	2	4
スワジランド	0	0	0	0
セーシェル	1	1	1	3
タンザニア	1	2	2	5
ナイジェリア	2	2	0	4
ナミビア	1	1	-	2
ボツワナ	1	1	1	3
マラウイ	2	1	2	5
モーリシャス	0	-	-	0
モザンビーク	1	1	2	4
レソト	1	0	-	1
南アフリカ共和国	2	2	0	4
グループ別合計	20	23	18	61

(注) アンゴラは、相手国の要望に基づき英語圏での受入。

3. 中南米混成 (32カ国)

国名/分野名	小中学校教員 1 (西語)	小中学校教員 2 (西語)	社会福祉 (障害者福祉) (英語)	国別合計
アルゼンチン	1	0	-	1
アンティグア・バーブーダ	-	-	1	1
ベネズエラ	-	0	-	0
ウルグアイ	1	0	-	1
エクアドル	1	1	-	2
エルサルバドル	1	1	-	2
ガイアナ	-	-	2	2
キューバ	1	0	-	1
グアテマラ	1	1	-	2
グレナダ	-	-	0	0
コスタリカ	1	0	-	1
コロンビア	1	1	-	2
ジャマイカ	-	-	3	3
スリナム	-	-	1	1
セントルシア	-	-	0	0
セントビンセント	-	-	1	1
セントクリストファー・ネーグイス	-	-	0	0
チリ	1	0	1	2
ドミニカ共和国	1	1	-	2
ドミニカ	-	-	1	1
トリニダード・トバゴ	-	-	2	2
ニカラグア	1	1	-	2
ハイチ	-	-	0	0
パナマ	1	0	-	1
パラグアイ	1	0	-	1
バルバドス	-	-	0	0
ブラジル	0	0	0	0
ペルー	-	-	1	1
ペルー	1	1	-	2
ボリビア	1	1	-	2
ホンジュラス	1	1	-	2
メキシコ	1	1	-	2
グループ別合計	17	10	13	40

4. 太平洋諸国 (14カ国)

①パプアニューギニア

分野名	分野別人数	国別合計
教育	15	30
保健衛生	15	

②太平洋混成

国名/分野名	社会開発	経済開発	環境保全	国別合計
バヌアツ	1	2	1	4
キリバス	1	2	2	5
クック諸島	-	1	1	2
サモア	2	2	1	5
ソロモン	2	2	1	5
ツバル	1	-	1	2
トンガ	2	1	2	5
オウル	1	1	-	2
ニウエ	1	-	1	2
パラオ	1	1	1	3
フィジー	4	4	4	12
マーシャル	1	2	1	4
ミクロネシア	2	2	2	6
グループ別合計	19	20	18	57

5. 南西アジア（7カ国）

国名	分野名	分野別人数	国別合計
バングラデシュ	医療1	15	30
	医療2	15	
パキスタン	地方行政1	14	29
	地方行政2	15	
インド	農業	19	38
	教員（障害者教育）	19	
スリランカ	教員（コンピュータ）	23	23
ネパール	教育（学校運営）	20	20
ブータン	教育（初中等教員）	10	10
モルディブ	教育（初中等教員）	10	10

6. 中央アジア混成（5カ国）

国名/分野名	マスメディア	中等高等学校教育 （職業教育）	地域振興	社会福祉	国別合計
ウズベキスタン	5	4	5	5	19
カザフスタン	4	5	4	5	18
キルギス	5	5	5	5	20
タジキスタン	4	4	5	4	17
トルクメニスタン	0	0	0	0	0
グループ別合計	18	18	19	19	74

7. コーカサス混成（3カ国）

国名/分野名	地域振興 （中小企業振興）	保健衛生 （母子保健）	国別合計
アルメニア	4	5	9
アゼルバイジャン	4	2	6
グルジア	4	3	7
グループ別合計	12	10	22

8. その他国別

国名	分野名	分野別人数	国別合計
中華人民共和国	青年指導者	25	240
	経済	25	
	地域振興	25	
	教育	25	
	行政	20	
	経済	20	
	社会基盤整備	20	
	地域振興1	23	
	地域振興2	23	
	教育	24	
	JOCV日本語教師	10	
モンゴル	教育	15	15
サウジアラビア	技術教育	20	20
アフガニスタン	公務員	15	35
	教育	20	
トルコ	教員（初等教育）	20	20
ヨルダン	教育（情報通信教育）	18	18

表4. 平成16年度 青年招へい事業 地域別・国別・分野別受入実績

地域	国名	教育・教員	経済・経営	勤労青年	公務員・行政	青年指導者	人材育成	地域振興・地域開発	社会福祉	農業	環境保全	保健医療・保健衛生	科学技術開発	学生	産業基盤整備・公共公益事業	その他	合計
アセアン	インドネシア	26			23			23	23	4	22	4			4		129
	マレーシア	27			22			18	14	4	18	4			4		111
	フィリピン	27			23			22		27	23	4			4		130
	タイ	27			22			23	23	4	23	4			1		127
	ベトナム	26						26	26	2	25	2			3		110
	ラオス	22								3		3			2		30
	ミャンマー	23								3		2			2		30
	カンボジア	3			20					22		2			3		50
	東ティモール	19															19
	小計	200			110			112	86	69	111	25			23		736
北東アジア	中華人民共和国	59	45		20	25		71							20		240
	モンゴル	15															15
	小計	74	45		20	25		71							20		255
南西アジア	バングラデシュ											30					30
	ブータン	10															10
	インド	19								19							38
	モルディブ	10															10
	ネパール	20															20
	パキスタン				29												29
	スリランカ	23															23
	小計	82			29					19		30					160
太平洋	バブアニューギニア	15										15					30
	太平洋その他		20					19			18						57
	小計	15	20					19			18	15					87
アフリカ	英語圏	43										18					61
	仏語圏	46										27					73
	小計	89										45					134
中南米	メキシコ	2															2
	ブラジル																0
	ペルー	2															2
	チリ	1							1								2
	その他	22							12								34
	小計	27							13								40
サウジアラビア	20																20
中央アジア5ヶ国	18						19	19							18		74
コーカサス3ヶ国							12				10						22
アフガニスタン	20				15												35
トルコ	20																20
ヨルダン	18																18
合計		583	65	0	174	25	0	233	118	88	129	125	0	0	43	18	1,601

表5. 平成16年度青年招へい事業 JICA国内機関/都道府県別受入人数

支社センター	実施県	招へい期間(来日日から離日)	種	国名・地域名	分野	人数	都内実施協力団体	地方実施協力団体	
JICA札幌 (79*4-7)	北海道	5月26日(水)～6月17日(木)	3	アセアン産成	農業(畑作管理運営)	26	(社) 青年海外協力協会	十勝インターナショナル協会	
	北海道	7月21日(水)～8月12日(木)	10	ベトナム	社会福祉	26	(財) 札幌国際クラブ	(財) 札幌国際クラブ	
	北海道	9月29日(水)～10月21日(木)	14	タイ	地域振興	23	(財) 日本経済青年協議会	とまこま国際交流センター	
	北海道	11月3日(水)～11月25日(木)	15	中南米産成	社会福祉(障害者福祉)	13	(社) 日本経済青年協議会	(財) 北海道国際交流センター	
	北海道	11月24日(水)～12月16日(木)	17	インド	農業	19	旭川市国際交流委員会	旭川市国際交流委員会	
	北海道	2月2日(水)～2月24日(木)	23	トルコ	教員(初等教育)	20	(社) 滝川国際交流協会	(社) 滝川国際交流協会	
JICA帯広 (29*4-7)	北海道	3月30日(水)～4月21日(木)	21	中央アジア産成	地域振興	19	(財) 北海道YMCA	(財) 北海道YMCA	
	北海道	5月27日(水)～6月18日(金)	4	太平洋産成	環境保全	18	釧路市海外青年招へい事業実行委員会	釧路市海外青年招へい事業実行委員会	
JICA東北 (49*4-7)	岩手	9月29日(水)～10月21日(木)	14	タイ	行政(地方行政)	22	(財) 岩手県国際交流協会	(財) 岩手県国際交流協会	
	秋田	5月27日(水)～6月18日(金)	4	太平洋産成	社会福祉	19	(財) 世界青少年交流協会	秋田県世界青年友の会	
	山形	6月30日(水)～7月22日(木)	8	インドネシア	教育(小学校教育)	22	(社) 青年海外協力協会	山形県青年海外協力協会	
	福島	6月30日(水)～7月22日(木)	8	インドネシア	行政(地方行政)	23	(社) 勤労厚生協会	福島県青年海外派遣友の会	
JICA二本松 (19*4-7)	福島	1月19日(水)～2月10日(木)	20	モンゴル	教育	15	日本青年団協議会	にほんまつ地球市民の会	
JICA駒ヶ根 (29*4-7)	長野	5月27日(水)～6月18日(金)	4	パプアニューギニア	保健衛生	15	(財) 国際看護交流協会	(社) 駒ヶ根青年会議所	
	長野	9月8日(水)～9月30日(木)	13	アフリカ産成(英語圏)	女性教員	20	(財) 日本友愛青年協会	(財) 日本友愛青年協会	
JICA筑波 (19*4-7)	茨城	7月14日(水)～8月5日(木)	9	パキスタン	地方行政2	15	(社) 青年海外協力協会	茨城県外国青年招へい事業実行委員会	
JICA東京 (69*4-7)	栃木	6月2日(水)～6月24日(木)	5	ベトナム	教育	24	(社) 国際交流サービス協会	(財) 栃木県青年会館	
	群馬	6月16日(水)～7月8日(木)	6	ミャンマー	教育(小学校教育)	20	(特) 群馬県世界青年友の会	(特) 群馬県世界青年友の会	
	群馬	6月30日(水)～7月22日(木)	8	インドネシア	環境保全(廃棄物処理)	22	(財) 世界青少年交流協会	(財) 群馬県国際交流協会	
	千葉	6月16日(水)～7月8日(木)	6	フィリピン	農業(水産業)	23	日本青年団協議会	(財) ちば国際コンベンションビューロー	
	千葉	9月1日(水)～9月23日(木)	12	マレーシア	行政(地方行政)	22	(財) ユースワーカー能力開発協会	浦安市国際交流協会	
	千葉	2月2日(水)～2月24日(木)	23	ヨルダン	教育(情報通信教育)	18	(財) ユースワーカー能力開発協会	市川市ユネスコ協会	
JICA八王子 (19*4-7)	山梨	8月12日(水)～8月3日(木)	1	マレーシア	社会福祉(障害者福祉)	14	(社) 国際交流サービス協会	(財) 山梨県YMCA	
JICA横浜 (19*4-7)	神奈川	11月3日(水)～11月25日(木)	15	中南米産成	小中学校教員1	17	(財) 海外日系人協会	鎌倉ユネスコ協会	
JICA北陸 (59*4-7)	富山	9月1日(水)～9月23日(木)	11	中華人民共和国	経済	20	(財) ユースワーカー能力開発協会	(財) とやま国際センター	
	石川	9月8日(水)～9月30日(木)	13	アフリカ産成(英語圏)	理数科教員	23	小松市国際交流協会	小松市国際交流協会	
	石川	3月30日(水)～4月21日(木)	22	フィリピン	教育(理数科教員)	23	(社) 青年海外協力協会	(財) 石川ユネスコホテル協会	
	福井	5月12日(水)～6月3日(木)	11	マレーシア	教育(小学校教育)	23	(財) 世界青少年交流協会	福井市国際交流協会	
	福井	9月1日(水)～9月23日(木)	11	中華人民共和国	行政	20	(社) 青少年育成国民会議	福井県日本中国友好協会	
JICA中部 (59*4-7)	岐阜	5月26日(水)～6月17日(木)	3	アセアン産成	教育(行政)	26	岐阜県世界青年友の会	岐阜県世界青年友の会	
	静岡	1月19日(水)～2月10日(木)	19	コカサス産成	地域振興(中小企業振興)	12	(社) 国際交流サービス協会	沼津国際交流協会	
	静岡	1月19日(水)～2月10日(木)	20	ネパール	教育(学校運営)	20	(社) 勤労厚生協会	(財) 静岡県国際交流協会	
	愛知	6月16日(水)～7月8日(木)	6	フィリピン	行政(地方行政)	23	(社) 日本経済青年協議会	(財) 名古屋国際センター	
	三重	7月21日(水)～8月12日(木)	10	タイ	環境保全(大気汚染対策)	23	(社) 日本経済青年協議会	(財) 三重県国際交流財団	
	JICA大阪 (129*4-7)	滋賀	6月16日(水)～7月8日(木)	6	フィリピン	環境保全(水質保全)	23	(社) 国際交流サービス協会	信楽県青年団体連合会
京都		5月12日(水)～6月3日(木)	1	マレーシア	環境保全(廃棄物処理)	18	(財) 日本友愛青年協会	(財) 京都ユネスコ・ホテル協会	
大阪		5月19日(水)～6月10日(木)	2	中華人民共和国	青年指導者	25	(財) 青少年育成国民会議	大阪府青少年活動財団	
大阪		9月1日(水)～9月23日(木)	12	東ティモール	教員(小学校教育)	19	(社) 青少年育成国民会議	大阪市青少年国際交流協議会	
大阪		1月17日(水)～2月8日(木)	18	アフガニスタン	教育	20	(社) 青年海外協力協会	(行) 青年海外協力協会近畿支部	
大阪		1月19日(水)～2月10日(木)	19	コカサス産成	保健衛生(母子保健)	10	(財) 日本ユネスコホテル協会	(財) 大阪ユネスコホテル協会	
大阪		3月30日(水)～4月21日(木)	22	インドネシア	社会福祉(障害者福祉)	23	(社) 日本国際生活体験協会	(社) アジア協会アジア友の会	
奈良		5月19日(水)～6月10日(木)	2	中華人民共和国	教育	25	(社) 国際看護協会	(財) 奈良YMCA	
奈良		7月14日(水)～8月5日(木)	9	パングラデシュ	医療1	15	(財) 日本ユネスコホテル協会	地味市代フォーラムなら	
奈良		9月1日(水)～9月23日(木)	11	中華人民共和国	社会基礎整備	20	(社) 国際看護協会	(社) まちづくり国際交流センター	
和歌山		11月17日(水)～12月9日(木)	16	中華人民共和国	教育	24	(財) 共立国際交流奨学財団	和歌山県国際交流協会	
和歌山		3月30日(水)～4月21日(木)	13	中央アジア産成	中等学校教員(職業教育)	18	(社) 勤労厚生協会	寿友会	
JICA兵庫 (39*4-7)		兵庫	9月8日(水)～9月30日(木)	21	アフリカ産成(英語圏)	(財) 国際看護交流協会	18	(財) 国際看護交流協会	神崎町
		兵庫	11月24日(水)～12月16日(木)	17	ラオス	教育(初・中等教育)	20	吉川町国際交流協会	吉川町国際交流協会
		兵庫	1月19日(水)～2月10日(木)	20	スリランカ	教員(コンピュータ)	23	(社) 日本国際生活体験協会	川西市交際交流協会
	JICA中国 (109*4-7)	鳥取	11月17日(水)～12月9日(木)	16	中華人民共和国	地域振興	23	(社) 日本中国友好協会	よつとり青友会
島根		9月29日(水)～10月21日(木)	14	タイ	教育(全教科)	23	(社) 日本国際生活体験協会	国際ネットワークしまね	
島根		1月17日(水)～2月8日(木)	18	アフガニスタン	公務員	15	(社) 青少年育成国民会議	(財) しまね国際センター	
岡山		5月27日(水)～6月18日(金)	4	太平洋産成	経済開発	20	(社) 日本経済青年協議会	(財) 岡山県青年会	
岡山		6月23日(水)～7月15日(木)	7	アフリカ産成(仏語圏)	理数科教員	23	(財) 日本ユネスコホテル協会	瀬山と世界を結ぶ会	
広島		7月14日(水)～8月5日(木)	9	パキスタン	地方行政1	14	(財) 日本国際生活センター	しょうばら国際交流協会	
広島		3月30日(水)～4月21日(木)	21	中央アジア産成	マスメディア	18	(社) 国際交流サービス協会	(財) 広島YMCA学園	
山口		5月27日(水)～6月18日(金)	4	パプアニューギニア	教育	15	(社) 国際交流サービス協会	(財) 防長青年会	
山口		11月24日(水)～12月16日(木)	17	ブータン	教育(初中等教員)	10	(社) 青年海外協力協会	(財) 山口県国際交流協会	
山口		3月30日(水)～4月21日(木)	22	フィリピン	地域振興	22	(社) 青年海外協力協会	世界青年登山友の会	
JICA四国 (89*4-7)	徳島	5月19日(水)～6月10日(木)	2	中華人民共和国	経済	25	(財) ユースワーカー能力開発協会	徳島県青年海外派遣の会	
	徳島	5月26日(水)～6月17日(木)	3	アセアン産成	保健衛生(公衆衛生)	25	徳島県日中青年交流協会	徳島県日中青年交流協会	
	徳島	9月29日(水)～10月21日(木)	14	タイ	社会福祉	23	(財) 日本ユネスコホテル協会	ハーモニー・ワーク・キャンパ	
	香川	7月14日(水)～8月5日(木)	9	パングラデシュ	医療1	15	(財) 国際看護交流協会	(財) 香川県国際交流協会	
	香川	11月17日(水)～12月9日(木)	16	中華人民共和国	地域振興2	23	(社) 勤労厚生協会	香川県海外派遣友の会	
	愛媛	6月2日(水)～6月24日(木)	5	カンボジア	農業(農付開発)	20	(社) 国際農業交流協会	愛媛県青年海外協力協会	
	愛媛	11月3日(水)～11月25日(木)	15	中南米産成	小中学校教員2	10	(財) 愛媛県国際交流協会	(財) 愛媛県国際交流協会	
	高知	11月17日(水)～12月9日(木)	16	中華人民共和国	JOCV日本語教師	10	(財) 日本ユネスコホテル協会	高知希望工務基金	
JICA九州 (69*4-7)	福岡	5月26日(水)～6月17日(木)	3	アセアン産成	公共事業(財政金融)	23	(社) 青少年育成国民会議	(社) 九州・山口経済連合会	
	福岡	6月30日(水)～7月21日(木)	8	サウジアラビア	技術教育	20	(財) 国際交流サービス協会	(社) 青年海外協力協会九州支部	
	佐賀	11月24日(水)～12月16日(木)	17	インド	教員(障害者教育)	19	(社) 青少年育成国民会議	佐賀ユネスコ協会	
	長崎	9月1日(水)～9月23日(木)	12	マレーシア	地域振興	18	長崎県世界青年友の会	長崎県世界青年友の会	
	宮崎	6月2日(水)～6月24日(木)	5	ベトナム	環境保全	25	(財) ユースワーカー能力開発協会宮崎支部	(財) ユースワーカー能力開発協会宮崎支部	
	鹿児島	1月19日(水)～2月10日(木)	20	モルディブ	教育(初中等教員)	16	(社) 青年海外協力協会	(財) 鹿児島県国際交流協会	
JICA沖縄 (29*4-7)	沖縄	6月2日(水)～6月24日(木)	5	カンボジア	行政	20	(財) 日本国際協力センター	(財) 沖縄国際交流・人材育成財団	
	沖縄	3月30日(水)～4月21日(木)	22	インドネシア	地域振興	23	(社) 日本経済青年協議会	沖縄平和協力センター	
国内事業部 (49*4-7)	愛知	6月23日(水)～7月15日(木)	7	アフリカ産成(仏語圏)	女性教員	23	(社) 勤労厚生協会	(社) 勤労厚生協会	
	三重	6月23日(水)～7月15日(木)	7	アフリカ産成(仏語圏)	保健衛生(公衆衛生)	27	(財) 国際看護交流協会	(財) 国際看護交流協会	
	大阪	7月21日(水)～8月12日(木)	10	ベトナム	地域振興	26	(財) ユースワーカー能力開発協会	(財) ユースワーカー能力開発協会	
	香川	5月19日(水)～6月10日(木)	2	中華人民共和国	地域振興	25	(社) 日本中国友好協会	(社) 日本中国友好協会	
合計	80グループ 1,601名 110カ国・地域			アセアン9カ国(736) アフリカ42カ国(134) 中南米25カ国(40) 太平洋諸国・地域14カ国(87)			南西アジア7カ国(160) 中央アジア4カ国(74) コカサス3カ国(22) 中華人民共和国(240)	モンゴル(15) サウジアラビア(20) アフガニスタン(135) トルコ(20) ヨルダン(18)	

表 6. 平成 16 年度青年招へい事業 調査団派遣実績

	調査団名	派遣国	派遣団体（構成）	日程
1	日本・トルコ友情計画実施協議調査団	トルコ	独立行政法人国際協力機構 1名 財団法人国際協力センター 1名	2004. 9. 11 ~ 2004. 9. 19
2	マレーシア事後交流促進調査団	マレーシア	鯖江市国際交流協会 7名	2004. 10. 30 ~ 2004. 11. 3
3	インドネシア事後交流促進調査団	インドネシア	福島県青年海外派遣友の会 4名	2004. 11. 23 ~ 2004. 12. 1
4	第 17 回アセアン同窓会交流連絡会 執行委員会議にかかるとアフターケア調査団	ベトナム	独立行政法人国際協力機構 1名 財団法人国際協力センター 1名 財団法人ユースワーカー能力開発協会 1名	2005. 3. 17 ~ 2005. 3. 25

平成 16 年度事後交流調査団派遣報告（要旨）

1. マレーシア

- (1) 派遣団体： 鯖江市国際交流協会
- (2) 派遣期間： 2004 年 10 月 30 日（土）～11 月 3 日（水）
- (3) 調査結果概要：
 - ① マレーシアの教育状況・環境について、地元鯖江市の小学校に情報を還元することを目的として、関係省庁、小学校視察等を通し、日本初等教育との類似点・相違点を観察・考察した。
 - ② 受け入れた青年との聞き取り調査等により、日本の小学校見学から得た知見（特に衛生面）を青年が活用していたことが確認された。
 - ③ 小学生との人的・文化的交流を通して、マレーシアと日本の関わり方と協力状況を把握し、今後の小学校間交流や第二次ホストファミリー事後交流イベントなどの機会創設を検討中。

2. インドネシア

- (1) 派遣団体： 福島県青年海外派遣友の会
- (2) 派遣期間： 2004 年 11 月 23 日（火）～12 月 1 日（水）
- (3) 調査結果概要：
 - ① 受け入れた青年との聞き取り調査等により、青年の日本での知見の活用への意欲が確認された。また、青年の招へい事業に対する要望（文化交流を重視したい、ホストファミリー等との事後交流など）を確認した。
 - ② インドネシア政府関係機関、各州政府の訪問を通じ、現在計画中の JICA 草の根事業の可能性調査を行い、インドネシア側の要望収集と意見交換の下地作りを行った。
 - ③ 事後交流計画として、ホストファミリーの受入可能性について、インドネシア帰国青年同窓会（KAPPIJA）との協力体制をつくることができた。

以上

IV. 感想文

1. 招へい青年の印象

第4陣パプアニューギニア	保健衛生グループ	マーク・ゴリ
第5陣ベトナム	環境保全グループ	チャン・ティ・ビック・ゴック
第8陣インドネシア	教育(小学校教員)グループ	アリフィン・ラフマン
第9陣バングラデシュ	医療2グループ	ナサル・ウッディン
第14陣タイ	社会福祉グループ	コラピン・チャルオーン
第18陣アフガニスタン	教育グループ	スハイラ・ナザリ
第18陣アフガニスタン	公務員グループ	モハマド・ヤマ・シャムス
第21陣中央アジア(カザフスタン)	社会福祉グループ	バティルベク
第23陣トルコ	教育(初等教育)グループ	フィキリ・ウスト
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	ルバ・アフマド・アロマリ

2. 合宿セミナー参加日本青年の声

第18陣アフガニスタン	教育グループ	近藤 仁生
第23陣トルコ	教育(初等教育)グループ	松澤 剛
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	茂木 香津代

3. ホストファミリーの思い出

第18陣アフガニスタン	公務員グループ	錦織 武央
第23陣トルコ	教育(初等教育)グループ	笹川 和子
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	桑形 久夫
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	熊田 奈津子

4. 団体担当者の所感

第18陣アフガニスタン	公務員グループ	(財)しまね国際センター 藤原 美香
第23陣トルコ	教育(初等教育)グループ	(社)滝川国際交流協会 前田 康吉
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	(財)ユースワーカー能力開発協会 里吉 弘治
第23陣ヨルダン	教育(情報通信教育)グループ	市川市ユネスコ協会 吉崎 晴子

1. 招へい青年の印象

ゴミ及びリサイクル管理

第4陣 パプアニューギニア 保健衛生グループ
マーク・ゴリ

保健衛生にかかわる者として、我が国のゴミの今後のあり方を考えるとき、日本のゴミ処理には学ぶところが多かった。

現代人は大量生産、消費から生ずる多量のゴミに悩みながらも、便利さを楽しんでいる。パプアニューギニアも毎年、環境を汚しているという意識を持たずに多量のゴミを適切に処理することなく捨てているのが現状である。この結果、ゴミ焼却から出るダイオキシンは現在直面する問題のひとつである。

我が国の将来や子どもたちのことを考えるとき、帰国後、このプログラムで見聞きした日本のゴミ処理を参考にして、ただちに我が国の処理方法の改善を提案したい。ゴミ処理の改善策として、国民の意識の向上や関係機関への働きかけを行いたいと考えている。改善策に基づいて、各機関はゴミの分別収集、下水処理、リサイクルの促進、ゴミ処理施設などの向上を図ったり、説明会を開いたりして、病気で苦しむ人の減少に努め、快適で安全な住環境を確保し、我が国の将来を明るいものとしたい。

日本への思い

第5陣 ベトナム 環境保全グループ
チャン・ティ・ビック・ゴック

6月、晴れた日、さくらの国に足を踏み入れた。周囲を取り囲む美しい自然はこの国に親近感を抱かせた。JICA大阪センターでコーディネーター、スタッフから受けた友情にあふれた微笑みは、外国である日本との距離感を吹き飛ばした。

日本・日本人についての講義を興味深く聞いてるうちにプログラムの1日目はあっという間に終わり、私たちが取り組んでいる環境保全という分野について知識を深めることができた。

宮崎では講義、セミナー、見学、文化体験を通し有意義な日々を過ごした。日本人から高い環境保護意識、規律性、熱心さを学び、そして環境問題についてはグローバル的な視野でとらえねばならないことに目覚めた。言葉は違っても、環境保全のために何かしなければならぬという思いは共通である。

ドキドキしながら待ち望んだワンデイボランティアとホームステイでは、親しみやすい気遣いで家族の一員のように温かく迎えてくれたご家族のおかげで、互いの日常生活、風習を理解し合うことができた。ボランティアの皆さんとの親愛あふれる握手、ご家族の方々の別れの涙は私たちにとって一生忘れられない思い出となるだろう。

JICA青年招へいプログラムは本当に有意義であり、両国の青年の友好を培うものだと改めて確信している。

アジア太平洋という共通の屋根の下で、日本・ベトナム両国の友好関係がますます信頼を深め、安定し、持続していくことを心から願っている。

桜の国で過ごした23日間

第8陣インドネシア 教育(小学校教員)グループ
アリフィン・ラフマン

23日間の桜の国での滞在が実現した。

映画『ターザン』のように、私も日本滞在中に出会ったたくさんの方々とコミュニケーションするために手ぶり身ぶりを使った。例えばホームステイ中にコミュニケーションするために使用した紙の枚数は10枚にのぼる。

ホームステイ出発の前日には「何が起ころのだろうか」と考え緊張していたが、ホストファミリーの方々の優しさに触れてその緊張は感激へと変わり、もっと長く滞在したいと思うほど素晴らしい経験となった。いつ皆さんと再会できるだろうか。

学校訪問も、大変興味深いものだった。子どもたちの礼儀正しさや責任感の強さ、規律正しさを知り、感銘を受けた。双葉小学校訪問では更に驚いた。この学校は、児童数20名の小さな学校だが、設備は十分に整っていた。日本政府が、都市部と僻地の格差が生じないように、いかに教育に心を砕いているかを実感した。

桜の国での23日間の滞在は、生涯忘れ得ない貴重な経験となった。

母子保健とバングラデシュにおける活用

第9陣バングラデシュ 医療2グループ
ナサル・ウッディン

両国旗のデザインは似ているが、両国には、母子健康において大きな違いが存在する。乳児と母親の死亡率においては、両国でまだかなりの隔りがある。

日本の母子保健も、初期のころは現在のバングラデシュと同じであった。日本は、母子手帳の普及はもとより、様々な保健推進活動によってそれらの問題に対応し、母子のため総合管理も取り入れてきた。

バングラデシュでも導入は可能で、妊娠前後の記録と5～6歳までの乳幼児のケアの記録のみならず、健康管理情報、政府の保健推進活動の内容を添付することもできる。母子手帳の普及で、サービスの質は確実なものになるし、総合的なメディカルケアを周産期に受けさせれば、乳児のケアは確実なものになる。これによって、乳児と母親の死亡率は減少するであろうし、医師が患者の病歴の確認に苦勞するといった問題もなくなるであろう。

道のりは遠くとも、青年招へい事業への参加青年や、関係者たちによる今後の努力が期待されるところである。

23日間の日本発見

第14陣タイ 社会福祉グループ
コラピン・チャルオーン

今回、社会福祉関係で先進国である日本に来る機会を得て、大変うれしく思う。

第1週目は大阪で基本的な日本語を学んだのち、大都会である東京に移動した。高層ビル、人の多さ、豊富な品物など、どれをとっても、驚くばかりだ。第2週目は講義が始まり、日本が抱える現在の問題

点、例えば、高齢化、少子化などを勉強した。タイ国では去年初めて高齢者に対する法律が制定されたばかりである。日本では障害を背負っていても健常者と同じように生活ができることが分かった。公共の場での障害者に対するインフラが整備されているからである。障害者を支える制度がよく整っている。しかしそれにもまして、驚かされたことは、政府の十分な予算配分である。それは国立リハビリテーションセンターや、職業訓練所などの施設を見学して分かった。

徳島県に移動し、障害者の施設学校等を見学した。そのなかに、先日テレビで見た障害者が訓練を受けていた。日本のマスメディアは障害の分野も大々的に取り扱うのだなと痛感した。

専門分野以外に、このプログラムの重要な役割は、言葉によらない日本文化を体験できることである。合宿セミナーやホームステイを通して、生の日本人に触れることができた。温泉に入ったり、伝統的な着物を着たり楽しかった。一生の思い出であり宝物である。

最後に忘れてはいけないことは、このプログラムに参加することにより、視野を広げ、新しいアイデアを創造し、職務に役に立つ知識を学べたことだ。

日本政府をはじめ、関係者の皆さんに感謝したい。

感謝を込めて……。

第18陣アフガニスタン 教育グループ
スハイラ・ナザリ

まずはじめに、グループを代表してJICAに対し、青年招へい事業へ私たちを招待していただいたことに心より感謝いたします。

プログラムは大変魅力的で多くのことを学ぶことができました。例えば、私たちは日本の法律や規律をも学ぶことができました。日本人は愛国心が強く、人道主義であるということも分かりました。私たちも日本人を見習って祖国アフガニスタンを自分の家のように愛し、清潔に保たなければならないと思いました。

日本の先端技術を観察し、そのいくつか実際に触れることができました。学校見学では日本の生徒たちと交流し、祖国の生徒と比較することができました。また、日本の教育制度を学ぶことができました。

科学技術館では、物理や化学実験を非常に興味深く観察しました。

日本人と交流し、ホームステイもしました。私はどのように感謝の気持ちを表したらよいか分かりません。日本人は情け深く、愛国心があり親切な国民です。

私は是非、日本で学んだことを祖国アフガニスタンで活用したいと思います。そして、自由で新しいアフガニスタンを建設できることを願っています。

最後に大変お世話になったJICA並びに関係団体のスタッフの方々、私たちのために忍耐強く一生懸命にやってくださったことに心より感謝します。

ありがとうございました。

無 題

第18陣アフガニスタン 公務員グループ
モハマド・ヤマ・シャムス

青年招へい事業に参加し、日本の各地を訪れてみて、私の日本と日本人に対する理解がいかに限られ

たものであったかを知ることとなった。今回の私の経験から言えることは、日本人は、日本の将来を担う世代だけでなく国際社会に対しても国家と民族の繁栄のために、時間がいかに大切であることを示そうとしている。そのために、日本人は、分というよりも秒まで数えるようなユニークな国民である。

日本人は、親切であることに高い価値を見いだしている伝道者である。その親切さは、母親が子どもに対するようであり、山のように断固としたものである。また、個人個人が、世界平和の大切さを認識している。さらには、無為に過ごすのではなく、仕事をしていることを好み、責任と威厳、透明性と誇りをもって任務を遂行している。

市民一人一人が公共財産の大切さを認識しているため、それを傷つけたりするような行為をする人はいない。そのため、ほとんど警察官を必要としない社会なのである。また、日本では非常に大きくかつ混雑する交通網が張り巡らされているが、交通整理をする警察官を目にすることはない。個々の運転者が、交通規則に従い、責任ある運転をすることを心得ているからである。そしてそれは、間接的に交通事故の削減をもたらしている。また、日本はすばらしい鉄道網をもち、その時間的正確さと快適さは世界の冠たるものであることも体験した。

日本人は、命と健康の大切さを知り、自分たちと次世代のために必要な措置を講じている。例をあげると、至るところに設けられている禁煙区域、ゴミの分別収集などは、よりよい生活環境を約束するものである。

日本の社会は、大まかにいうと2つの宗教と1つの民族からなる社会であり、そのため独自の文化、風俗習慣を保持しており、世界的に見ても豊かな文化を有する社会である。日本人は、自分たちの文化だけでなく、異文化を知ることにも大変熱心である。

私は日本の中流家庭で1泊2日のホームステイを楽しんだが、温かい歓迎に接し、ホストファミリーが遠来の客をもてなすことにはいかに一生懸命であったかを知った。

日本人は、お互いに敬い合い、慈しみ合っており、国際社会に対しても協力的である。鳥根県に滞在中に、このような日本人の特質を垣間見る機会があった。あるとても寒い日、私は通訳のレザさんと買い物に出かけた。店はほとんど閉まっていたが、1軒だけ開いている店があった。ふと見ると、陳列棚の横に果物が置いてあった。とその時、女の人がやって来て、その果物の値段を聞いた。すると、店の主人は、ためらうことなくその果物を女の人に渡し、その人は果物を受け取ると代金を払うことなく立ち去って行った。私は驚いて、レザさんに尋ねた。彼の説明によると、こんなに寒く、他の店はすべて閉まっていて買い物ができないので、店の主人は自家用の果物を女の人にあげたのだと言う。まさに日本人がどれほど親切でお互いを思いやっているかが分かる出来事だった。

無 題

第21陣中央アジア(カザフスタン) 社会福祉グループ バティルベク

訪日前と訪日後で、最も大きく変化したのは、我々自身の日本についての考え方である。私たちにとって、日本はもう遠い他人の国ではなくなった。私たちの心には、日本で出会った人たちのことがずっと残るだろう。また、ニュース等で「日本」という言葉を聞けば、日本の友人が元気がどうか、気になるだろう。日本、そして日本人たちが大好きになった。特にボランティアの方々との交流、ホームステイによって、そう感じるようになったと思う。日本の皆さんと冗談を言い合い、彼らの笑顔に接し、交流したことによって友情と尊敬の気持ちが生まれた。

日本での滞在は、専門知識を得る意味でも大変有益なものだった。日本の社会制度を学び、様々な施設を視察するなか、カザフスタンでの社会福祉向上のための新しいアイデアと方向性を見いだすことが

できた。

また、地下鉄や様々な場所で日本の人たちの行動を観察できたこと、清掃が行き届いたきれいな街を見ることができたことも、とても良かった。

日本で、多くのことを学ぶことができた。カザフスタン帰国後は、そのことを友人、同僚に伝えていきたい。私たちは、お互いの国に学び合わなければならないと思う。

いろいろと大変にお世話になり、ありがとうございました。

日本とトルコ、文化の架け橋

第23陣トルコ 教育(初等教育)グループ
フィキリ・ウスト

専門性を高め、日本文化を学び、交流を深めるためのプログラムが始まりました。

講義・セミナーや博物館訪問で日本文化を知り、学校訪問では、楽しみながらも、教員と懇談したり、クラス運営を学んだり、有意義なものでした。

指導の効果を高めるには、日本のように充実した機器や教材が重要であると分かりました。また、生徒たちが清掃や給食の配膳などにも参加しているというのも発見でした。クラブ活動への参加は社会性を育むのに役立ちます。

日本の教育制度をよりよく理解できたのは、合宿セミナーにおいてでした。日本の教育制度は、まさに「生涯教育」であり、「生きるちから」そのものです。

そして、最も日本人の生活やもてなしの心を知ることができたのは、ホームステイでした。友人もたくさんできました。日本人がいかに親切な国民かをトルコで伝えたいと思います。

私たちは、日本人にとってただの友人というだけでなく、文化の民間大使なのです。

日本での研修の印象

第23陣ヨルダン 教育(情報通信教育)グループ
ルバ・アフマド・アロマリ

今回の訪問はきわめて有意義なもので、参加したすべての青年が満足していました。研修目的のほとんどのことを、ほぼ達成することができました。とくに文化交流や、日本の社会システム、日本人の日々の生活などを知ることができたことは、かけがえのない貴重な経験をしたと思っています。青年のなかには、もっと充実したIT関係の専門分野の見学や、研修があった方がよかったとの意見もありましたが、専門分野の見学も、非常にためになるものであったと考えています。

大阪をはじめ、市川市、東京で、私たちは多くの日本人と友情を結ぶことができました。こういった友情関係は今後もずっと続けていきたいし、もっともっと深まっていくものと思っています。

コーディネーターの2人には、大変お世話になりました。研修旅行などきっちり行ってくれましたし、また友達のような態度で私たちに対応してくれました。

最後に、JICA、また私たちをお世話してくださったすべての方々に感謝の意を申し上げたいと思います。いろいろ協力してくださり、どうもありがとうございました。

2. 合宿セミナー参加日本青年の声

教育はすばらしい！

近藤 仁生

(長野県 下諏訪南小学校教諭：第18陣アフガニスタン、教育グループ)

アフガニスタン青年教師との教育交流は、私にとって原点に戻り「教育」を考えるチャンスをもたらした気がしてならない。

まず、まじめさがうっとうしく感じる今の社会にあって、合宿セミナーに参加した両国の青年の目の輝きに感動した。「頑張ることのすばらしさを、もう一度子どもたちに感じさせたい……」2泊3日のセミナー期間中、ずっとこう思っていた。力を合わせることや、協力する心地よさをたくさん子どもたちに味わわせたいと思った。

教育についてディスカッションしたとき、「教育は世界共通だ！」と感じた。もちろん日本とアフガニスタンでは哲学や習慣が違うから、相違点はたくさんある。けれど、子どもたちの明るい未来を考えていることは共通だった。だから、お互いに意見が違っても認め合うことができたんだと思う。

それから「自由」についても学んだ。アフガニスタンでは、学校に行きたくても行けない児童がいる事実を知った。戦争の傷跡が今でも残っている現状を聞き、胸が熱くなった。「日本の子どもたちは今どんな気持ちで学校に来ているんだろう？」と考えたとき、子どもたちを責める前に、教師としての自分の振舞いを見つめ返すことができた。そんなとき、アフガニスタン青年教師のある人は、教師の資質向上を熱心に語っていた。いろんな話を聞いているうちに、国や文化が違っても子どもたちと接していく姿勢は同じだな……と感じた。

合宿セミナーが終わっても、教育交流で得た感動を忘れることができなかった。目の前にいるクラスの子どもたちに写真を見せながら今も時々話しているが、子どもたちは新聞やニュースで知ったお話のような出来事を、少しだけ身近に感じてくれているようだ。策や方法ではなく、出発点は子どもから……！ 再確認できた教育交流だった。

バラが出てくるまでじっと待つ

松澤 剛

(北海道札幌国際情報高等学校教師：第23陣トルコ、教育(初等教育)グループ)

私と同室だったナイルさん(35歳)は黒海沿岸のシノップという町の小学校の校長先生。彼は私にトルコには次のような詩があると紹介してくれた。

「木の枝の膨らみを、見つめ続けて見続けて、眼が疲れてきたところでようやくバラがあらわれてくる」

その意味するところは「物事を成し遂げるにはとても時間がかかる。様々な働きかけをしながら、希望を捨てずに、じっと待ち続けることが重要だ」ということだそうだ。そして「人間の向上心に終わりはない。私はトルコとトルコ人が好きです。死ぬまで志を持って働きたい」と教師としての使命を語ってくれた。

ナイルさんに比べて、日本で教育に携わる私はどうだろうか。教師としての「使命」というものを考えたことがあっただろうか。トルコと日本では国情が違うので一概に「国家のための教育」というようなことはいえないが、教育に対して様々な期待が寄せられているのはどこの国でも変わらない。

私は一人一人の生徒の潜在的な能力を引き出し、充実した人生を送ることのできる力を付けさせることとともに、知識集約型産業の時代に、豊かな感性と創造性によって、先例のないことに対し道筋を見つけていく力、自分の未来を自分で切り開いていく力を育成することが教育の使命であると考えている。

そのためには、子どもたちの成長を信じ、失敗を恐れずに好奇心のまま行動させ、それをじっと見守り続けるという姿勢が大切なのだということをナイルさんのことばから改めて教えられた。

ヨルダンセミナーに参加して

茂木 香津代

(会社員：第23陣ヨルダン、教育(情報通信教育)グループ)

今回初めて合宿セミナーに参加させていただきました。2泊3日という間でしたが、お互いの意見交換をすることができ、良い経験ができたと思います。

まずは、バスに乗り込んだ途端、「互いの国の言葉で自己紹介をしていただきますので、車内で練習してください」とのご案内があり、全く事前準備などしていませんでしたので、驚いてしまいましたが、同席の方が流暢な日本語で、自己紹介をしてくださいました。続いて私には、アラビア語でどう言えばいいのか丁寧に指導してくださったお陰で、互いの初対面の緊張感からくる垣根が一気に取り払われて自然に親しくなれたような気がします。

意見交換会では、両国の教育事情、IT事情などを話し合い、有意義な時間を過ごせました。一番楽しかったことは、お部屋に集っての女の子だけのダンスパーティ。右に左に部屋中所狭しと、輪になって踊ったことは、とても良い思い出です。

ヨルダンという国が私の中ではとても身近な国になりました。

3. ホストファミリーの思い出

我が内なるアフガニスタン

錦織 武央

(島根県：第18陣アフガニスタン、公務員グループ)

数年前カンボジアとベトナムの両国を訪問した際に、指導者と進むべき方向とに狂いを生じた国家とそうでない国の歴史と対極の現状を目の当たりにし感慨を得た。

9・11以来、にわかに世界の注目を浴びるようになったアフガニスタンにおいても、その内憂外患は周知のとおりである。

しかしながら今回来県したアフガン青年たちは、凜とした態度で我々と向かい合っていた。誇り高き国民性を強く感じ、この国の復興は必ずや為されるものと確信した。幸いシャムスディン君は英語が堪能でコミュニケーションは良好であり、来訪したアメリカ人の友人たちをも交え、夜通し語り合うことができたことはこの上ない経験となった。

現在、彼とはメールでのやりとりも継続中で、上水道の施設設計を生業としている私にとって、機会があれば彼と共にアフガニスタンの大地を巡り、豊かな水を供給する施設の築造を夢見、また彼の国の一日も早い復興を祈る日々である。

通じぬ言葉もまた楽し

笹川 和子

(北海道：第23陣トルコ、教育(初等教育)グループ)

トルコ青年を受け入れる日が近づき、目に付く所にトルコ語を貼り付け、ポケットにメモ。でも、さっぱり覚えられない主人と私。“なんとかなる”と、思いながらその日を迎えました。ところがあいさつを交わしたものの英語はほとんど通じず、さりとしてトルコ語も通じず、お互い身振り、手振り、トルコ語会話集が何よりの頼りでした。今思い出しても、お互い顔だけはニコニコ、首をかしげながら、最後には笑い出していました。

土曜日の午前は砂川市総合体育館、ホームマック、弓道場に案内しました。彼はバトミントンをしたり、弓道の手ほどきを受け大喜びでした。午後はスキーをぜひしたいと言うので出かけましたが、リフトに乗る段になると“乗らない”と言うので、係員に頼んで両脇を抱えられ、なんとか乗りました。山頂からの素晴らしい眺めに大満足。でも、いざ滑り出すと足がすくんで滑れない。“リフトで降りる”と言うので、係員がスノーモービルで降ろしてくれることになり、おかげで彼はモービルに乗ってご満悦でした。

その晩は彼が“トルコ料理をご馳走します”と言って、慣れた手つきで包丁を使いサラダ、スープ、炒め物を作ってくれました。食後には彼が持参したトルコのコーヒーを自分でいれてくれ、おかげで本当に楽しい夕食の時間を過ごすことができました。

言葉のすれ違いはありましたが、何事もなく楽しいひと時を過ごすことができました。陽気で人懐っこい彼にとっては良い経験と、思い出がたくさんできたことと思います。お別れでは、我が子を旅立たせる時のような気持ちで、いつまでも手を振り続けていたのは、まさに、友好的で好意の持てる人たちだったからだと思います。楽しい時間をありがとうございました。

初めてのアラブ研修員の受入れ

桑形 久夫

(千葉県：第23陣ヨルダン、教育(情報通信教育)グループ)

イスラム世界には禁忌が多く、ホストファミリーの方はかなり戸惑ったことでしょう。

幸い、我が家ではアラブの生活が長かったこともありほとんど問題はありませんでした。息子は小学4年のとき、アラブで生活しましたし、嫁さんはNOVAに5年間通った成果を試すべく、ハラルチキンも手に入れ、スゴウル博士の来宅を楽しみに待っていました。

スゴウル博士はまことに好感の持てるインテリでした。土曜は浅草2時間、秋葉原3時間、日曜は江戸東京博物館3時間、新丸ビル2時間と精力的に情報を吸収しようとするすべてに前向きな姿勢は、洋々たる将来を予感させます。3日間のお付き合いはかなり疲れましたが、おかげさまで散らかった家が整理され、アラビア語のさび落とし等有意義な時間でした。

6人家族になった3日間

熊田 奈津子

(千葉県：第23陣ヨルダン、教育(情報通信教育)グループ)

◎念願のホストファミリーに

以前からやってみたかったホストファミリー。共働きのためあきらめていましたが、育児休暇中の今なら、と思っていたところにすばらしいタイミング！大喜びで参加させていただきました。

食事会、お迎え時、さよならパーティーと、皆が集まるときのにぎやかで楽しい雰囲気が最高でした。アリーとアナンはもちろん、他のヨルダンの仲間が私たちや子どもたちに次々に声をかけ話をしたり写真を撮ったりするなど楽しいときを過ごすことができました。

◎食事

皆で夕食の買い物に出かけました。見慣れない食材の名前を紹介したり、食べられるものや好きなものを話し合いながら買い物をし、白身魚と野菜の鍋(味噌仕立て)、パエリア等になりました。何にしようかと悩むのではなく2人に聞きながら皆で料理を考えることができ、お互いによかったと思います。2日目は2人がヨルダンの家庭料理を作ってくれました。アリーの料理中、作り方を教わったり、ビデオを撮ったり。今度は2人を思い出しながら自分で作ってみようと思います。

◎外出

江戸東京博物館では通訳ガイドが同行してくれる無料サービスを利用。各展示品の説明はもちろん、ガイド同行者のみが入れる場所もあり、おすすめです。ただ、全部お願いするとかなり時間がかかるので、1時間程度でそれ以降はカットしてもらいました。午後は秋葉原へ。免税店に行ったので、店員さんが英語で商品の説明をしてくれること、日本のお土産コーナーもあり、一緒に買えたことなど便利でした。さすがにコンピューター関係の仕事をしているだけあり、興味深々で「あと3日は欲しい」と言っていました。

◎家では

持参してきてくれたヨルダンの音楽を聞きながら、ヨルダンの観光地や家族のことなどを地図や写真を見ながら話をしたり、PCでヨルダンにいる彼らの兄弟や、お母さんとチャットやテレビ電話をしたりしながら、「2人が帰っちゃってもこうやって話ができるね」とPCの楽しい活用法を教えてもらったりと、いろいろな形で情報交換ができました。

◎おわりに

我が家は0歳と2歳の子どもがいたので、特に上の子はどんなふう慣れていくのだろうかと思いましたが、2人が積極的に握手したり、だっこしたり、声をかけたりしてくれたので、照れながらも、「アリーとアナンは？」と2人を呼んだり、お菓子を手渡しに行ったり、一緒にふざけたりするようになりました。今でもよく2人のことを話しますし、保育園で友達や先生にうれしそうに2人のことを話しているそうです。子どもたちにとって、国際交流のすばらしい機会がもてたことをうれしく思います。私もヨルダンで同じようにママをしている女性と国境を越えて子育てのことや遊びのこと、服やおもちのことなど具体的に話ができたことがとても有意義でした。またこのような機会があったら、今度はぜひそのような形での交流も深めてみたいと感じています。

4. 団体担当者の所感

無 題

藤原 美香

((財)しまね国際センター：第18陣アフガニスタン、公務員グループ)

初めての受入れでアフガニスタンから青年を迎えるにあたって、いろいろな不安材料がありました。まずアフガニスタンという国について知識がなく、まったく様子が分からなかったので手探り状態からスタートしました。私たちにとってまさに未知の国でした。

受入時期が冬で、鳥根県ではこの冬一番の大雪に見舞われ、連日寒いなかでのプログラムとなりました。戦争でつらい経験をしてきた青年たちでしたが、毎日「サラム」と元気に笑顔であいさつしてくれました。担当者として初めての受入れでいろいろなプレッシャーがありましたが、子どものように無邪気で思いやりにあふれた青年たちに励まされることが多々ありました。

今回アフガニスタン青年たちは日本でいろいろなことを学んだでしょうが、受入側の私たちも青年たちとの出会いを通して、相手の立場から物事を見ること、課題を共有することの重要性を改めて教えられました。

無 題

前田 康吉

((社)滝川国際交流協会：第23陣トルコ、教育(初等教育)グループ)

青年招へい事業が実施されて以来、初めてトルコ共和国から青年が招へいされ、当協会では受け入れさせていただきました。

トルコ共和国も初めての事業ということもあり、18名の教員のほか、教育省の担当者、JICAトルコ事務所の担当者、さらにはトルコの教育行政に精通した新聞記者を派遣するなど、この事業に対する真剣さを感じたところであります。

今回派遣された研修生の皆さんは大変優秀な方々が多く、質問時間が足りなくなるほど真剣に質問をされていていました。

その一方で、幼稚園を視察したときは、初等教育の教員らしく、子どもたちを見る目はとても優しく、にこやかな表情で接していました。

今後も、トルコ共和国においてこの事業が継続されることを願うとともに、機会があればまた、受け入れたいと思っています。

文化の遭遇

里吉 弘治

((財)ユースワーカー能力開発協会：第23陣ヨルダン、教育(情報通信教育)グループ)

家が隣同士の幼なじみの男の子が成長し家庭を築いても隣同士に住む。家の行き来もあり食事もご馳走になる。日本でもかつてはあった日常が今もヨルダンにはある。しかし違うのは、お互いの妻の顔は見ないということ。妻が食事を作り客人のいる部屋のドア越しに食事を運び、小さい子どもだけがドア

の内と外を行き来ができる生活。それは日本とはまったく違う風景。

日常の仕事で外国人との商談も軽くこなす日本人、最近では珍しくない。しかし、そんなスキルを駆使しても初めての文化には苦戦した。討論はすごい、しつこい、頑張る、我々とは明らかに違うスタイル。

家族でない男女が一緒にお酒を飲む、私たちには当たり前のことでもアラブでは違う。夜の自由時間に歌って踊るって宴会ももちろんあった。でも男女別の宴会、女性たちもものすごく盛り上がったようだ。きっと彼女たちは昼には見せなかった表情を見せていたのだろう。

彼らから学んだこと、それは文化の違いがこんなにも面白いこと。

そして、文化は決して対立しないこと。

そして、文化は人間にしか理解できないこと。

魅惑のヨルダン

吉崎 晴子

(市川市ユネスコ協会：第23陣ヨルダン、教育(情報通信教育)グループ)

受託決定から招へい担当まで約2か月という短さ、ヨルダン国の知識の乏しさ、アラビア語という言葉の壁、イスラム圏による宗教文化の違いをどう乗り越えるか不安でした。

しかし、資料を読むにつれ、世界遺産の太古の都ペトラ、モダンな首都アンマンがあるヨルダンは魅惑の国と私には思えました。

研修生は向学心に燃え、知識が豊富で礼儀正しく好感が持てました。視察先での活発な意見交換は貴重な時間の共有でした。

研修生から「市川に戻りた〜い」と、フレンドリーな気持ちを率直に表現していただき、ホストファミリーの不安要素(生活習慣の違い)は消え、良い印象だけが残りました。予想以上に人との交流、お互いの国を理解できたのではないかと思います。

平成 16 年度 青年招へい事業 実績概要

平成 17 年 8 月

発行 独立行政法人 国際協力機構 国内事業部 市民参加協力室 青年招へいチーム
〒151-8558 東京都渋谷区代々木 2-1-1 新宿マインズタワー
TEL 03-5352-5402～3

編集 財団法人 日本国際協力センター 国際交流部 交流課
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル
TEL 03-5322-2571

無断転載を禁じます。



